

事業所における自己評価結果（公表）

【放課後等デイサービス】

公表： 令和4年 3月 日

事業所名：まふいん

	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			小集団、中集団での療育を行うために人数にあった空間を使い分けている。また、感情が高ぶった際のクールダウンの部屋（学習室）なども確保している。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○			厚生労働所が定める基準配置より多くの職員を配置している。	活動や利用児の状況を確認しこどもたちのパフォーマンスが最大限に発揮できるような職員配置人数を見極める。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			段差に関しては極力なくすように心がけている。	
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			日々の振り返りなどには勤務している常勤・非常勤問わず広く参加している。次回のどのように活かすかまで丁寧に振り返っている。	意見の交換がしやすい雰囲気づくりを作り、指摘だけでなく代替案も提案できるように準備する。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			自己評価だけでなく日頃から保護者の意見を把握し、業務改善に努めている。	評価をする上での評価基準や取り組み後のフォローアップ体制を児発管を中心に確認する。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページにて公開し保護者にも通知している。	意見を受けて改善した取り組みの周知をホームページだけでなく月報などにも載せる。内部研修にて職員全員で共有する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			理事や監事の皆様、療育アドバイザーに適宜評価をいただき、評価結果を業務改善に繋げている。	福祉サービス第三者評価の体制を整え、来年度は評価を受ける。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			外部研修だけでなく内部研修にてブレゼン発表、事例検討などを行い、研修の機会を確保している。同法人の保育園やこども園とも合同の研修を実施している。	来年度は外部機関（就労支援サービス、就労移行支援など）との連携を図った研修も受講する。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			アセスメントツールを活用し、保護者とのモニタリングを通して計画書を作成している。	課題ばかりに目を向けず、個別支援計画に反映されている地域福祉の項目にも目を向け、支援を行う。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			市役所の承認を得て、まふいんのアセスメントシートを使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			活動計画はチームで立案を行い、日々の振り返りにて評価、改善している。	
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			日々の人数や児童らの特性を考慮し毎回プログラムを変え、職員も更なる一歩を求め自己研鑽している。	活動の原理原則、こどもたちの興味、自発性を引き出させるような活動プログラムを職員ひとりひとつずつ考案する。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇などは普段の活動ではできないような体験的な活動を取り入れている。	特に放課後等デイサービスの上級生になると自立・自律を意識した活動内容を設定したい。下級生と一緒に活動する日、上級生だけで活動する日など区別していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			個々の発達段階や個人の課題に対して集団療育、個別療育を組み合わせている。	個別の課題と社会性を広げるための集団的活動を相互に取り入れバランスのとれた放課後等デイサービスを作成していく。
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			作戦ボードを利用し児童の行動の予測を踏まえた打合せを行っている。	ねらいに対して活動の内容が適切か全職員で深く意見交換できるように努める
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			活動終了後は毎回フィードバックをしている。	評価だけでなく次回に向けての具体的な支援策の提示を行う。

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日誌は毎日書き、重要な事案に関してはミーティングを行い見直し、再検討をしている。	正しい記録の書き方、身体拘束時の記録の取り方など障害福祉サービスとして最低限必要な知識を職員研修で受講する。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		保護者とは定期的にモニタリングを行い、アセスメント後個別支援計画を見直している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○		ガイドラインは全職員に配布し、確認をしてもらっている。	地域に支援においてはどのような社会資源が今必要なのか、職員自身が必要性のある社会資源を調べ保護者に提案できるようにしていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には職務に適した職員が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		保育所等訪問支援などを通じて連携の強化に努めている。	感染症対策もあり、現在はまふいんに来て実際の活動を見てもらうという機会がない。時期を見て学校の先生方向けの公開療育を設定し案内する。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		受け入れなし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		保育所等訪問支援を通じて以前通園したこどもたちの情報をできる限り共有している。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		実際に就労先を見学に行くなど本人の情報共有ができるような体制を整えている。	まだまだ就労移行支援に関する知識などが弱い。全職員が研修を受けられるように内部研修に近隣の就労移行支援サービス事業所の方を招き講師をしてもらう。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		公開療育、見学会、研修等を通して他事業所とも連携を図っている。並行利用通園児についても、情報の共有を行っている。	児童発達支援センターの機能を知るためにも今後、密な連携が必要。見学に行くなど直接足を運ぶ機会を設ける。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		法人内での人事交流を通して障害のない子どもと活動する機会を設定している。今年度はお米プロジェクトを一緒に行った。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		各機関からの研修、会議案内には極力参加できるようにしている。	特に外部講師を招く研修は地域の他事業所を招待するなど密な関係図る。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		口頭、電話、メール、面談を通してまふいんでの様子を丁寧に説明している。	保護者が困っていることを出しやすい雰囲気作り、保護者の変化に早急に気づくような視点を育てるためにも日頃の連絡を欠かさない。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		迎えに来た際や個別の面談を通して、自宅での対応方法をアドバイスしている。	個別向け、集団向けのペアレントトレーニングを意識し研修などで得た情報など具体的な事例を提示して行う。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に必ず行っている。	児発管だけではなく全職員で対応できるように内部研修などで対応の仕方をロールプレイしておく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		相談などがあつた場合、個別の面談を設け支援の方向性を確認し、必要に応じて助言を行っている。また、その後のアフターフォローまで行っている。	職員への負担が偏ることなく職場内の職員全員が事業所内相談支援を行う。まずは相談の受け方のロールプレイを行う。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		就学教育相談説明会や保護者向け研修、3月実施予定のまふいん活動報告会などを通じて支援を行っている。	今期は特に保護者同士の連携を図る機会が少なかった。Zoomなどを使い保護者向け研修の充実を図る必要がある。

保護者の説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談に関してはその都度受け入れている。苦情委員会を整備し迅速に対応している。	苦情を受けた際の初動については全職員が理解しておく必要があるため、職員会などで対応マニュアルを定期的に確認する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月まふいん便りを保護者に配布するとともにホームページにて活動を報告している。活動変更時にはメールにてお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	○		写真や業務上知りえたことについては職員会などで定期的に確認している。研修などを通して職員へも個人情報保護法の周知、徹底を行っている。	重要事項説明書や契約書の内容を全員で確認する機会を設ける。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		電話やメールにてできる限りの情報共有、情報伝達に努めている。	顔を合わせる機会が少ない保護者に関しては積極的に活動見学会などに誘い、実際の様子を見てもらう。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		ナガヤタワーの住人の方と季節の行事などを行なっている。	職員だけでなく子どもたちが考えた企画を行うのもどうか？今までの経験から地域の皆さんと行える活動を長期休暇で行う。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練（10月に実施）、防犯訓練などを行っている。新型コロナウイルスの予防、発生時のフローチャートを作成している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練（10月に実施）、防犯訓練などを行っている。	桜島大噴火の避難訓練を実施するため、担当者を決め計画を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		人権擁護、虐待防止担当者を決め毎年研修に参加させている。又、職員会などでも周知している。今年度は法人全体での研修も実施した。	施設内虐待に繋がらないように対応する職員のメンタル、手法が適切か全職員が把握しコミュニケーションを図る。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		当事業所では身体拘束は行わない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーに関しては事前に保護者と確認を行い、緊急時に対応する医療機関も事前に把握している。	法人研修を通し、アナフィラキシーショック時の対応や観察の仕方を確認する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ファイルを作成し職員会で全職員と情報を共有している。また原因を追究し、改善点を話合っている。	改善後、手順書に従って業務ができていのかフォローアップが必要である。

事業所における自己評価結果（公表） 【児童発達支援】

公表：令和4年 3月 日

事業所名：まふいん

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		小集団、中集団での療育を行うために人数にあった空間を使い分けている。高学年、低学年でそれぞれにあった活動空間・環境を確保している。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○		まふいんでは厚生労働省より定められている基準配置人数よりも多めの職員人数を配置している。	活動や人数の状況を確認しこどもたちのパフォーマンスが最大限に発揮できるような職員配置人数を見極める。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		段差に関しては極力なくすように心がけている。全職員が情報を共有できるように日頃のミーティングを強化している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		毎活動後の消毒、加湿器の導入、換気、サービス提供が終了してからの清掃などで清潔な空間を保てるようにしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		職員会議だけに限らず日々のミーティングや打合せを行っている。また職員との面談を通じて個々の目標に関しても振り返りを行っている。	意見の交換が出来やすい雰囲気づくりを作り、指摘だけでなく代替案も提案できるように準備しておく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		自己評価だけでなく日頃から保護者の意見を把握し、業務改善に努めている。	評価をする上での評価基準や取り組み後のフォローアップ体制を見発管を中心に確認する。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページにて公開し保護者にも通知している。	意見を受けて改善した取り組みの周知をホームページだけでなく月報などにも載せる。内部研修にて職員全員で共有する。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○		理事や監事の皆様、療育アドバイザーに適宜評価をいただき、評価結果を業務改善に繋げている。	福祉サービス第三者評価の体制を整え、来年度は評価を受ける。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		外部研修だけでなく内部研修にてプレゼン発表、事例検討などを行い、研修の機会を確保している。	受講した研修を実際の現場に反映させるまでに至っていない。可能な範囲でどのようにすれば反映できるのかを施設長だけでなく職員全員で考えたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		アセスメントツールを活用し、保護者とのモニタリングを行っている。面談では課題のすり合わせを行い、児童発達支援計画を作成している。	課題ばかりに目を向けず、個別支援計画に反映されている地域福祉の項目にも目を向け、支援を行う。
	11 アセスメントツールを活用し、保護者とのモニタリングを通して計画書を作成している。	○		市役所に許可をもらい、まふいんのアセスメントシートを使用している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		ガイドラインの項目に沿った個別支援計画書を作成し、個々のニーズに沿った支援内容を設定している。	職員の中でも意見が分かれる項目に関して十分協議を行い、個別支援計画に反映させる。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		個別支援計画を意識した活動内容を提案し実施している。	課題ばかりに目を向けず、個別支援計画に反映されている地域福祉の項目にも目を向け、支援を行う。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		活動計画はチームで立案を行い、日々の振り返りにて評価、改善している。	
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		日々の人数や児童らの特性を考慮し毎回プログラムを変え、職員も更なる一歩を求め自己研鑽している。	感触遊びや運動遊びなど原理・原則に応じた新たなプログラム作りを行うことで職員の質の向上に努める。	

	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		個々の発達段階や個人の課題に対して集団療育、個別療育を組み合わせている。	発達年齢を考慮しながら小集団、中集団の活動設定を行うため、アセスメント、モニタリングの会議を具体的支援策まで落とし込んだ内容にする。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		作戦ボードを利用し児童の行動の予測を踏まえた打合せを行っている。	ねらいに対して活動の内容が適切か全職員で意見交換を行い、子供たちの発達に向けた支援を行う。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		活動終了後は毎回フィードバックをしている。	評価だけでなく次回に向けての具体的な支援策の提示を行う。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		日誌は毎日書き、重要な事案に関してはミーティングを行い見直し、再検討をしている。	正しい記録の書き方、身体拘束時の記録の取り方など障害福祉サービスとして最低限必要な知識を職員研修で受けてもらう。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		保護者とは定期的にモニタリングを行い、アセスメント後個別支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携関係	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には職務に適した職員が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		電話や自主公開療育、直接出向くことで密な連携を行っている。	困難事例に関しては市の子育て支援課と密に連絡をとりあっている。今後はケース会議なども視野に入れた積極的な連携を行う。
	23	“(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか”	○		受け入れなし	
	24	“(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		受け入れなし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		保育所等訪問支援を通じて支援内容の確認と支援のすり合わせを行いスムーズな移行支援を実行している。	移行支援に関しては各事業所間で共通したシートを元に情報交換を行うべく、共通したシートを作成し活用する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		保育所等訪問支援だけでなく学校に赴き個別支援計画や情報共有シートをもとに相互理解の機会を設けている。	保育所等訪問支援などで来年度入学して行く児童に関して事前に情報提供を行う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		公開療育、見学会、研修等を通して他事業所とも連携を図っている。並行利用通園児についても、情報の共有を行っている。	児童発達支援センターの機能を知るためにも今後、密な連携が必要。見学に行くなど直接足を運ぶ機会を設ける。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		長期休み期間を利用し、保育園に行くなどの交流を通して障害のない子どもと活動する機会を設定している。	今年度は新型コロナウイルスなどの状況も鑑み実施することはできなかった。近隣の施設等に打診し交流が行えるようにする。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		各機関からの研修、会議案内には極力参加できるようにしている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		口頭、電話、連絡アプリ、面談を通してまふいんでの様子を丁寧に説明している。	保護者が困っていることを出しやすい雰囲気作り、保護者の変化に早急に気づくような視点を育てるためにも日頃の連絡を欠かさない。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		迎えに来た際や個別の面談を通して、自宅での対応方法をアドバイスしている。	個別向け、集団向けのペアレントトレーニングを意識し研修などで得た情報など具体的な事例を提示して行う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に必ず行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		面談を行い個別支援計画の説明をしたうえで同意を得ている。	こどもの発達により個別支援計画に書かれた内容とは別の課題が浮き彫りになる。面談の中で保護者とともに内容のすり合わせを行うつつ、新たな課題へアプローチを行う。

保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	相談などがあった場合、個別の面談を設け支援の方向性を確認し、必要に応じて助言を行っている。また、その後のアフターフォローまで行っている。	職員への負担が偏ることなく職場内の職員全員が事業所内相談支援を行う。まずは相談の受け方のロールプレイを行う。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	就学教育相談説明会や保護者向け研修、3月実施予定のまふいん活動報告会などを通じて支援を行っている。	今期は特に保護同士の連携を図る機会が少なかった。Zoomなどを使い保護者向け研修の充実を図る必要がある。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	相談に関してはその都度受け入れている。苦情委員会を整備し迅速に対応している。	苦情を受けた際の初動については全職員が理解しておく必要があるため、職員会などで対応マニュアルを定期的に確認する。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	毎月まふいん便りを保護者に配布するとともにホームページにて活動を報告している。活動変更時にはメールにてお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	入職の際には個人情報に関する取扱いの誓約書を記入してもらっている。また写真掲載などの扱いを必ず保護者に許可をもらっている。	重要事項説明書や契約書の内容を全員で確認する機会を設ける。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	電話やアプリにてできる限りの情報共有、情報伝達に努めている。	顔を合わせる機会が少ない保護者に関しては積極的に活動見学会などに誘い、実際の様子を見てもらう。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	ナガヤタワーの住人の方と季節の行事などを行なっている。	職員だけでなく子どもたちが考えた企画を行うのもどうか？今までの経験から地域の皆さんと行える活動を長期休暇で行う。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	マニュアルを作成し消防訓練とは別に水防法による避難訓練（6月に実施）、防犯訓練などを行っている。新型コロナウイルスの予防、発生時のフローチャートを作成している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	マニュアルを作成し消防訓練立ち合いによる避難訓練（10月に実施）、防犯訓練（鹿児島中央署の方が来訪）を行っている。	桜島大噴火の避難訓練を実施するため、担当者を決め計画を行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○	子どもの情報をできるだけ具体的に把握できるようにフェイスシートを用いて確認を行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	食物アレルギーに関しては事前に保護者と確認を行い、緊急時に対応する医療機関も事前に把握している。	法人研修を通し、アナフィラキシーショック時の対応や観察の仕方を確認する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	ファイルを作成し職員会で全職員と情報を共有している。また原因を追究し、改善点を話合っている。	改善後、手順書に従って業務ができてきているのかフォローアップが必要である。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	人権擁護、虐待防止担当者を決め毎年研修に参加させている。又、職員会などでも周知している。	施設内虐待に繋がらないように対応する職員のメンタル、手法が適切か全職員が把握しコミュニケーションを図る。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	当事業所では身体拘束は行わない。	

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表： 令和4年 3月 日

事業所名：まふいん（児童発達支援）

保護者等数（児童数） 28 回収数 21 割合 75%

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	1				まふいんでは人数に応じた活動スペースの確保を行っております。適切な活動スペースを今後も維持して参ります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	21					まふいんでは厚労省は設置している配置人数より多い職員配置を行っております。引き続き専門性を高め、支援いたします。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境 i になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	20	1				極力段差をなくすなどの対応を引き続き行っていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	21					今後も活動後はアルコール消毒を行うなど感染予防を徹底した対応を行います。
	環境・体制整備についてご意見があれば記入してください（任意回答）						
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画 ii が作成されているか	21					面談や活動見学の際に客観的視点から保護者のニーズを捉え支援内容を提示します。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	21					児童発達支援ガイドラインに則した計画作成を行っております。保護者の方との面談や相談支援事業所、こども園や保育園とも連携しながら計画書を作成しております。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20	1				支援を行う際には個別支援計画を見直した上で活動を決定しています。
	8 活動プログラム iii が固定化しないよう工夫されているか	19	2				軸となる活動から応用とした活動まで幅広く展開していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流・活動する機会があるか	16	2	1	2		今年度は新型コロナウイルスによる影響もあり、近隣の施設と交流、活動する機会はありませんでした。来年度、活動機会を設定できるように努めます。
	適切な支援の提供についてご意見があれば記入してください（任意回答）						
10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21						今後も契約時や必要に応じてご説明させていただきます。
11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	21						個別支援計画は保護者の皆様のニーズとまふいんの見解を融合させたものとなっています。今後も共有しながら支援を行います。
12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニングiv等）が行われているか	18	1	1	1			保護者向け研修を設け皆様への発信を行っております。また個別にご相談いただいた際には改めて面談日を設け子育てに関する悩みなどアドバイスしております。
13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	21						連絡アプリを導入し、更なる共通理解ができるように配慮致します。

保護者への説明等	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20	1			個別支援計画見直し時に面談を行っています。育児に関する悩みなどございましたらお知らせください。	
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	14	2	3	2	まふいんでは保護者会などの開催はございませんが、保護者向け研修や年度末の活動報告会にご参加いただき保護者同士の交流を図る場を設けております。	
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	21					今後もなにかありましたらご相談ください。迅速にご対応致します。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	21					活動の様子や連絡帳アプリを活用するなど保護者の皆様との意思疎通に努めております。
	18	定期的な会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	21					ホームページやまふいん便りなどで随時情報を発信して参りますのでご確認ください。
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	20	1				ブログなどの写真掲載など必ず保護者の許可を得てから掲載するようにしています。
		保護者への説明等についてご意見があれば記入してください（任意回答）						
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	18			3	今年度の避難訓練は10月に行いました。ブログ、まふいん便りにも掲載しておりますのでご確認ください。玄関にマニュアルを整備してありますので今一度ご確認ください。	
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17			4	今年度は近隣のテナント、地域の住民のかたと共同した訓練を行いました。市のハザードマップでは浸水区域に指定されているため水害訓練も毎年行っています。	
		非常時の対応についてご意見があれば記入してください（任意回答）						
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	18	2		1	今後も社会性が広がる療育を展開するとともに子ども達が笑顔で楽しく通えるような事業所づくりを目指して参ります。	
	23	事業所の支援に満足しているか	20	1			ありがとうございます。スタッフ一同日頃より感謝しております。来年度も療育の質の向上に向け、更なる1歩を目指し邁進して参ります。	
		満足度についてご意見があれば記入してください（任意回答）						

ご意見

連絡帳、電話、迎え時の話、必要であればすぐに面談日の日程を組んで対応して下さり、心から安心して子供を通わせることができます。また、親としても先生方が一生懸命、誠実に対応して下さるので大きな心の支えになって下さっています。これで子供のためになるのか、この対応で良かったのかなど不安や心配を一つ一つクリアして下さるのでありがたいです。いつもいつも本当に感謝しています。ありがとうございます。

子どものことはもちろん、保護者向けの勉強会などまふいんから学ぶこともとても多く、有り難い存在になっています。

マフィンへ通い始めた頃に比べ子供と向き合う時に夫婦だけでなく職員の皆さまに相談できることで本当に助かることが多々ありました。大変感謝しております。

定期的開催してもらえることで、子どもにも防災に対する意識が身についてきているような気がします。コロナ禍で避難訓練するのは難しい部分もありますが、ソーシャルディスタンスで実地訓練ができなくとも絵や画像などで非常時の行動を確認するなど、防災への意識を子どもにも根付かせてもらえるとうれしいです。おかげ様で、少しの揺れでも机の下に隠れようとしてくれます。障害によってはパニックになる子どももいるかもしれないし、災害時にどんな行動をとれるかで命が助かるかもしれないと思うと大事な事かなと個人的には考えます。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和4年 3月 日

事業所名：まふいん（放課後渡欧デイサービス）

保護者等数（児童数） 34 回収数 17 割合 50 %

	チェック項目	はい			ご意見	ご意見を踏まえた対応
		どちらでもない	いいえ			
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17				まふいんでは人数に応じた活動スペースの確保を行っております。適切な活動スペースを今後も維持して参ります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17				まふいんでは厚労省が設置している配置人数より多い職員配置を行っております。引き続き専門性を高め、支援いたします。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	15	2			極力段差をなくすなどの対策を引き続き行っていきます。
	環境・体制整備についてご意見があれば記入してください（任意回答）					
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等サービス計画 i i が作成されているか	16	1			面談時にどのような学習に取り組んでいるのか、個人ファイルを提示しながらわかりやすく伝えていきます。
	5 活動プログラム i i が固定化しないよう工夫されているか	14	3			外部講師や内部研修などで新しい活動プログラムを考案し実行しております。今後もホームページや連絡帳などで発信いたします。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流・活動をする機会があるか	15	2			今年度は法人内の児童クラブとお米プロジェクトを一緒に行いました。ブログにも掲載してありますので再度ご確認ください。
	適切な支援の提供についてご意見があれば記入してください（任意回答）					
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17				今後も契約時に丁寧な説明を心がけ、保護者、児童が安心してまふいんに通所できるように努めます。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	16		1		連絡帳アプリを活用し日頃から連携に努めます。保護者の皆様とも共通理解ができるよう、児発管だけでなく他職員も子供たちの課題をしっかりと把握できるように努めて参ります。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	17				送迎時や面談などで育児に関する話を行っています。また早急に解決が必要な際には随時面談を行っております。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	11	6			来年度は保護者同士の連携が図れるように保護者研修後の懇談会など体制を整えていきます。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	17				今後もなにかありましたらご相談ください。迅速にご対応致します。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17				活動の様子や連絡帳アプリを活用するなど保護者の皆様との意思疎通に努めます。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	17				ホームページやまふいん便りなどで随時情報を発信して参りますのでご確認ください。
14 個人情報に十分注意しているか	17				ブログなどの写真掲載など必ず保護者の許可を得てから掲載するようにしています。	
	保護者への説明等についてご意見があれば記入してください（任意回答）					

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	15	2			今年度の避難訓練は10月に行いました。ブログ、まふいん便りにも掲載しておりますのでご確認ください。玄関にマニュアルを整備してありますので今一度ご確認ください。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15	2			今年度は近隣のテナント、地域の住民のかたと共同した訓練を行いました。市のハザードマップでは浸水区域に指定されているため水害訓練も毎年行っています。
		非常時の対応についてご意見があれば記入してください（任意回答）					
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	14	2	1		日々の活動内容も一方的なものばかりでなく、子ども達と対話を重ねながら社会性を育むことができるような支援を今後とも重ねていきます。
	18	事業所の支援に満足しているか	17				ありがとうございます。来年度も保護者の皆様と一緒に子ども達が様々な経験を通して成長していけるように努めます。
		満足度についてご意見があれば記入してください（任意回答）					

ご意見

送迎を前よりも多くしてくださり母親の負担が減り助かってます。いつも、何か問題が起きた際、すぐに対応してくれて助かりました。